

萩ジオパーク構想基本計画・実行計画

維新とマグマの胎動の地・萩

平成 29 年(2017)12 月

萩ジオパーク構想推進協議会

目 次

1. はじめに	
(1) 萩ジオパーク構想とは	1
(2) 萩ジオパーク構想の取組みの経緯と計画策定の目的	1
2. 萩ジオパーク構想を取り巻く環境	
(1) 自然的環境 位置・地勢、気候、生物・生態系	3
(2) 社会的環境 人口・観光	4
3. 萩ジオパーク構想の現状と課題	
(1) 萩ジオパーク構想の特徴	6
(2) 萩ジオパーク構想の範囲とジオサイト	10
(3) これまでの活動の経緯と成果	11
(4) 協議会の設立から今日まで	12
(5) 今後の課題	15
4. 萩ジオパーク構想の将来像（基本計画）	
(1) 将来像（ヴィジョン）	21
(2) 活動の目標（基本計画）	21
(3) 萩ジオパーク構想の推進体制	23
5. 萩ジオパーク構想実現のための実行計画・行動計画	
(1) 実行計画	24
(2) 行動計画（アクションプラン）	31

1. はじめに

「萩は維新とマグマの胎動の地」

近代日本の夜明けを告げた明治維新。

これに関わる多くの志士たちを輩出した萩は、海・山の幸に恵まれ、中心地は城下町として栄えた歴史文化豊かな地域です。では、その地域の人々の繁栄を支えたものは何でしょうか。

それは大地です。

萩のまちを支える大地は、その大部分がマグマの活動によってつくられたもので、1億年もの昔から地下でマグマがうごめき、たびたび地上に噴き出しました。萩の大地はそんな地球活動の記憶を私たちに語ってくれます。大地と人が共に歩んできた歴史を、維新とマグマの胎動の地・萩で体感できる場所なのです。



（１）萩ジオパーク構想とは

萩の大地に寄り添い、大地に適した形でまちを築いてきた先人の知恵を学び、萩らしくあるために今に生きる私たちはどう振る舞えば良いのかを考え、萩らしい形にまちを発展させて未来の世代に引き継ぐことにより、地域の持続可能な発展を実現する。

萩ジオパーク構想は、「萩らしさ」を地球目線で楽しむことの出来るまちづくりの新たな指針（羅針盤）である。

（２）萩ジオパーク構想の取組みの経緯と計画策定の目的

本構想エリアの人口は、昭和30年代がピークで、都市部への流出による人口減少が続くとともに少子高齢化が著しく進行している。特に中山間地域では、若い世代の流出による担い手不足が深刻化し、地域の主要産業である農林漁業経営の継続はもとより、集落の維持さえも困難となっている。

こうしたなか、平成18年に萩市の弥富地区と阿武町の福賀地区を結ぶ広域農道の工事中に伊良尾火山の噴出物の大規模な露頭が発見された。これを契機に、弥富地区を中心に、地球の活動による大地のめぐみがあって現在の人間の生活があること、これ

を将来に受け継いでいかなくてはならないことを自覚し、地域おこしに結びつけることを目的に、住民主体のジオパーク活動が始められた。

平成 27 年 4 月に萩ジオパーク構想推進協議会を設立し、萩市及び阿武町の全域並びに山口市阿東地域にジオパーク活動を展開することにしたが、ジオパークとして目指す方向性が明確でなく、持続可能なジオパークの運営体制が確立されていないことが問題となった。

このため、協議会において改めて「萩ジオパーク構想基本計画・実行計画」を策定し、萩ジオパーク構想の将来像と活動の目標を掲げ、地域住民との共通認識とすることにより、萩ジオパーク構想の実現と持続可能な地域づくりを目指すこととした。

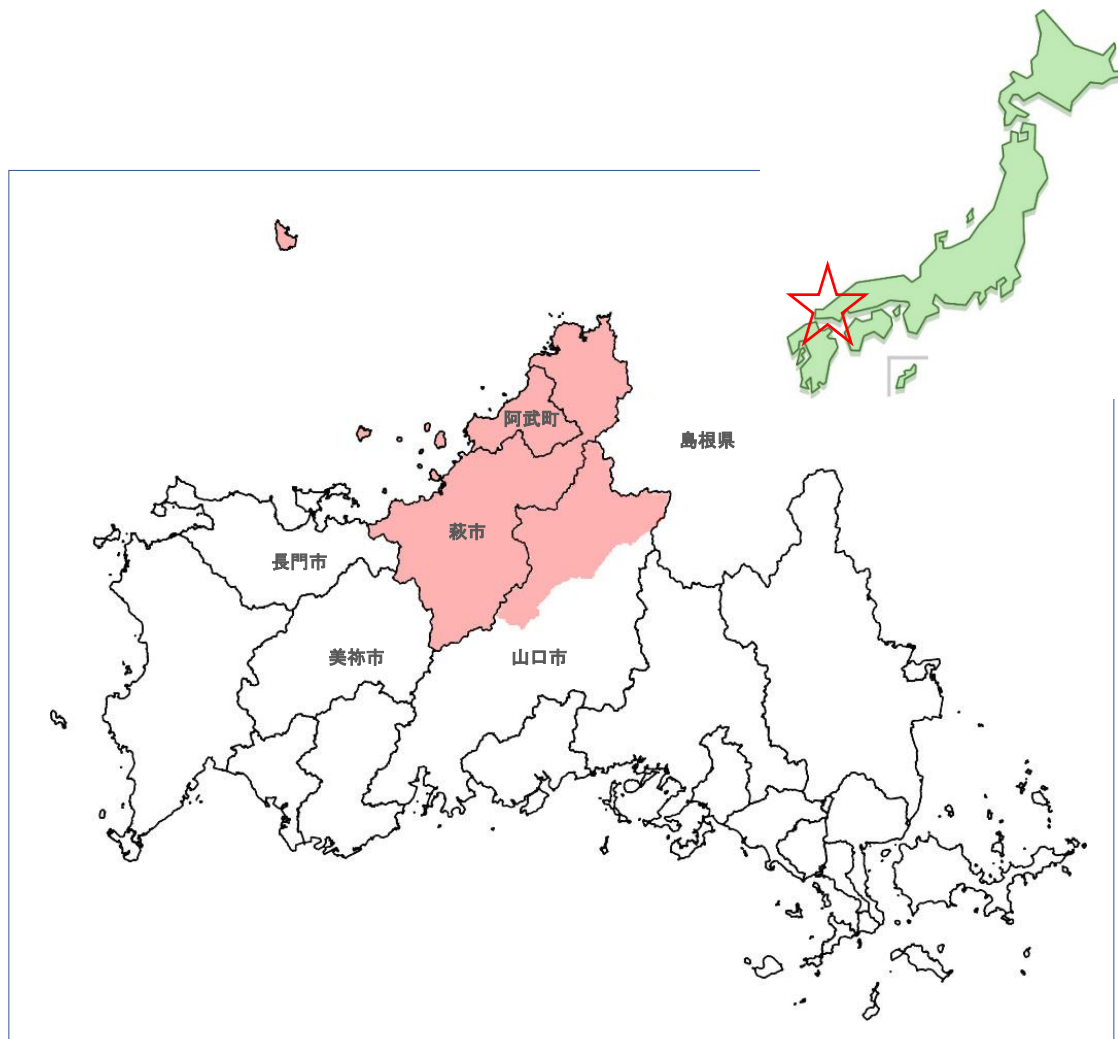


図 1-1 萩ジオパーク構想 位置図

2. 萩ジオパーク構想を取り巻く環境

(1) 自然的環境

① 位置・地勢

萩ジオパーク構想で定める地域（山口県萩市、阿武町、山口市阿東地域※）、以下「当該地域」という。）は山口県の北東部に位置し、総面積は 1107.3 km²で、県土の 18.1% にあたる。北部は日本海に面し、東部は島根県（益田市、津和野町、吉賀町）と接し、南部は山口市、西部は長門市、美祢市に接する。海岸線を中心に北長門海岸国定公園に指定され、沖合には宇田島、大島、櫃島^{ひつ}、肥島、羽島、尾島、相島^{あい}の 7 つの平らな火山である島が点在し、約 45km 沖合には見島がある。そのうち見島、大島、相島、櫃島は有人島である。

地形は、全体として東部の中国山地から北西部の日本海へ向かう傾斜地で、南部には十種ヶ峰^{とくしがみね}（989.2m）をはじめ標高 700m を超える山々が連なる。平地は少なく、阿武川河口部に形成された三角州にある萩市街地部とその周辺及び阿東地域の徳佐盆地に見られ、丘陵地は、田万川地域から須佐地域にかけての臨海部に比較的なだらかに広がっている程度で、大半を山地が占めている。

河川は、南部の阿武川水系、中部の大井川水系、北部の田万川水系に大別される。阿武川は二級河川で、上流部は徳佐盆地を流れ河岸段丘を形成し、河口では萩市街地の広がる三角州により松本川と橋本川に分かれている。三角州は川内の最高位でも 9 m の低地で、周辺部の上野台にわずかに洪積台地が残る。

※山口市阿東地域・・・旧阿東町のこと。阿東町は、山口県北東部にあった町で阿武郡に属していた。
平成 22 年（2010）1 月 16 日に山口市に編入された。

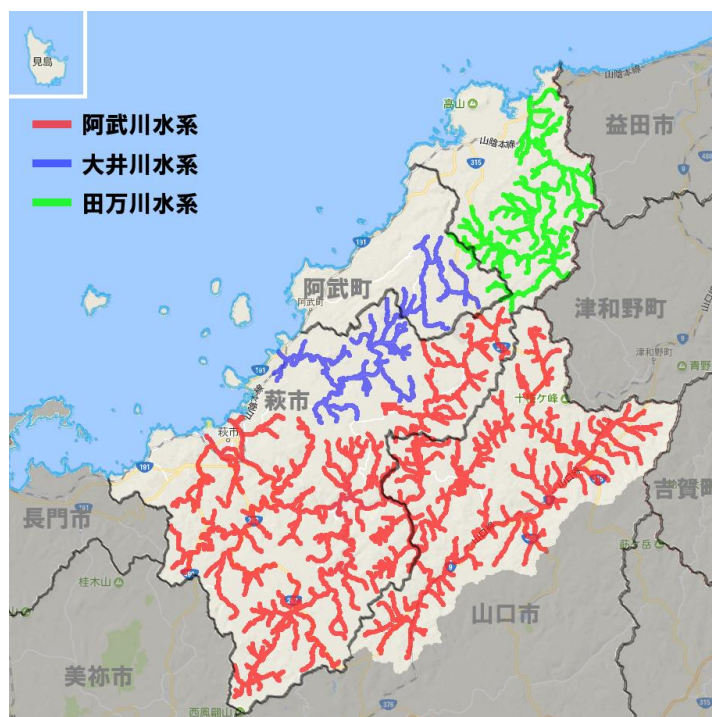


図 2-1 萩ジオパーク構想内の水系図

② 気候

山口県の気候は、日本海型、内海型、山地型の3つに区分される。

当該地域のうち、萩市及び阿武町の沿岸部は日本海型に属し、沖合いを流れる対馬海流やその海風の影響で、年の平均気温は15℃程度と温暖である。冬季、北西の季節風の影響で曇天が多く、日照時間は少ないが、気温が高いため積雪は少ない。また、1日の気温の変化を表す日較差は小さい。

萩市及び阿武町南部、山口市阿東地区は、山地型に属し、年の平均気温は13℃程度と低く、降水量は多い。積雪が比較的多く、山口市阿東地区の徳佐では、昭和38年1月の豪雪で185cmの降雪を記録している。

③ 生物・生態系

当該地域の自然植生は、ヤブツバキクラス域（常緑広葉樹林域）であり、日本海沿岸部のやや土壌の深い場所には、スダジイ、タブノキ群落が優占する。人間活動や自然災害により植生のほとんどは二次林（代償植生）となり、内陸部の多くは薪炭に用いられたアカマツ・コナラ林であったが、今はコジイ・カシ群落に置き換えられてきた。

また、当該地域は、温暖な気候と良好な自然環境に恵まれ、温帯性の動物が豊富に生息している。哺乳類に関しては、中国山地の西端にあたることから、ニホンツキノワグマの生息が確認されているが、里山の荒廃に伴い、人家近くへ出没し、ニホンイノシシ、ニホンザルとともに獣害が問題視される。

中国や朝鮮半島とも近いことから、ユーラシア大陸からの鳥類の渡りのコースにもなっており、とくに日本海沖合いの見島は渡り鳥の主要な中継地の一つとなっている。氷河期には海面低下により、これら大陸とつながっていたと考えられ、比較的多くの大陸遺存種が見られる。当該地域内でも日本海に面する地域にだけ自生するダルマガキなど、大陸とのつながりを示唆する生物が見られる。

また、笠山風穴周辺では冷温帯要素のホソイノデが自生し、暖地性のシダとの間に雑種を作り、また溶岩塊のすき間を縫ってできた海水の満ち干のある塩水地には好塩性植物が自生するなど、火山地形と関係する植物も見ることができる。

（２）社会的環境

① 人口

当該地域の人口は、平成27年の国勢調査では58,806人、世帯数は25,577世帯である。人口はピーク時の昭和30年の129,150人から減少傾向が続いている。1世帯当たりの人員も減少が続き、核家族化や一人暮らしの高齢者が増加している。

萩ジオパーク構想に定める範囲すべてが過疎地域自立促進特別措置法（平成12年法律第15号）第2条の過疎地域に指定されており、人口ビジョン（平成27年）では、人口は平成52年（2040年）には38,584人（平成27年比で63.44%）にまで減少すると推測されており、人口減少への対応が急がれている。



図 2-2 (参考) 萩市の人口将来推計

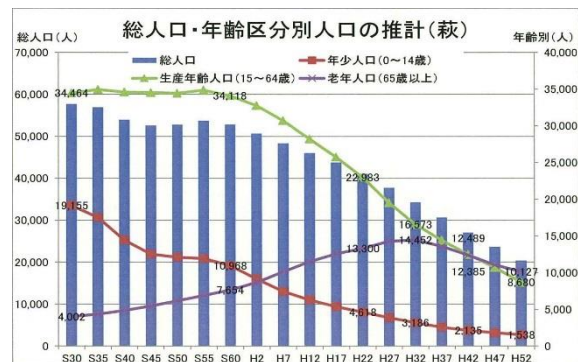


図 2-3 (参考) 萩市の人口将来推計

② 観光

当該地域は、萩市を中心として城下町のたたずまいや明治維新に関する史跡などの歴史的環境や自然環境など文化遺産が数多く残り、昭和初期から観光産業により支えられてきた。戦前期の歴史遊覧から始まった観光は、高度経済成長期を迎えた日本において、原風景を求める旅行が盛んとなった時期には、女性誌などにも取り上げられ、多くの観光客が訪れたが、山陽新幹線が開通した昭和 50 年をピークにその後減少傾向となった。

これまでの明治維新の歴史をたどる城下町や松下村塾などを短時間で巡る通過型が主であった観光スタイルに対する危機感もあり、平成 16 年に萩再発見という大きなテーマのもと、「心のふるさと・萩」のおもてなしをまちじゅうで推進する、まち全体を屋根のない博物館と捉える「萩まちじゅう博物館構想」のもとに特色ある観光地づくり、まちづくりの推進を図っている。

また、中山間地域に目を向けると農林水産業を連携させたまちづくりを進めており、6 次産業化による生產品のブランド化、地産池消の取組み等が活発化したほか、グリーン・ツーリズム等の協議会が立ち上がり、民泊や体験型修学旅行の受け入れによる交流人口の拡大を見せている。

萩地区の観光客数は、平成 27 年については、NHK大河ドラマ「花燃ゆ」や世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」登録の効果もあり、爆発的に増加しているが、年間約 220 万～240 万人の間での推移で、その内の約 90%が県外客である。

■観光客の推移

	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
萩ジオパーク全域	2,990,276	2,814,971	3,107,542	3,898,413	3,279,852
萩市	2,334,062	2,185,423	2,301,054	3,065,999	2,417,406
阿武町	198,235	193,081	325,744	369,396	431,440
山口市阿東	457,979	436,467	480,744	463,018	431,006

(萩市、阿武町、山口市より)

3. 萩ジオパーク構想の現状と課題

(1) 萩ジオパーク構想の特徴

萩ジオパーク構想は過去3億年間に及ぶダイナミックな地球活動を記憶した大地と、人々がそれと向き合ってきた独特の文化が色濃く残る地域であり、大地と人の共生の姿に触れることができる。

萩の大地は約3億年かけて形成され、特に最後の1億年間ににおけるマグマの活動は萩の文化形成にも関わる特有の地質や地形を生み出した。その成り立ちは4つの章に分けられる。



図 3-1 萩ジオパーク構想の大地の成り立ち

第1章 南の海から来た大地

第1章は、約3億年前から2億年前の間（石炭紀からジュラ紀）に起こった萩の大地の土台を形成したプレート沈み込みの活動である。

萩市の川上地区を中心に分布する石灰岩やチャートといった岩石は、南方の海域（低緯度海域）の海山のサンゴ礁や深海底の堆積物がプレート運動によって北上し、海洋プレートが沈み込むアジア大陸縁辺に押し付けられて大陸の一部（付加体）となった歴史を物語っている。こうして大陸の縁に新たにできた大地は、その後に地下で次々と起こるマグマの活動を経験していった。

第2章 大規模噴火を起こした大陸のマグマの胎動

第2章は、約1億年前から3千万年前までの間（白亜紀から古第三紀）に大陸縁辺で起きたマグマの活動である。

地下に形成された巨大なマグマが大規模な火山活動を次々と起こしては陥没し、カルデラがいくつも形成された。時代が古いために明瞭な地形を残していないが、萩市の佐々並地区や田万川地区に楕円状に分布する火成岩類はカルデラの陥没構造を示している（コールドロン）。特に田万川コールドロンの研究は山陰地方に広く分布する古第三紀コールドロン群の発見のきっかけとなった。このような大規模噴火を引き起こしたマグマである花崗岩類も広く分布し、特に海岸沿いでよく観察できる。阿武町のも도로岬周辺では、異なる組成のマグマ同士の混交によってできた斑模様がみられる。1億年前の地下数十キロメートルで起こったマグマの活動とそれが地上で引き起こした火山活動を合わせて見ることができる。



も도로岬（阿武町奈古）：大規模噴火を起こしたマグマの断面を見ることができる。

萩の代表的な工芸品である萩焼には、これらの岩石が風化してできた土が使われている。萩焼の陶土は耐火性が比較的高いために、他の陶器と比べて圧倒的に高温・短時間で焼くことができ、焼き締まりの弱いやわらかな風合いを生み出している。

第3章 日本海をつくったマグマの胎動

第3章のステージは約2000万年前から1200万年前（古第三紀から新第三紀）にかけて大陸縁辺が引き裂かれ、日本海が形成される過程で起こったマグマの活動である。

須佐湾周辺には、この時代の日本海に堆積したウミガメなどの化石を含んだ砂や泥の地層が分布し、当時の日本海の様子を知ることができる。約 1500 万年前に海底下のマグマ活動によって地層を貫いて噴出した溶岩が形成した海底火山（山島）、貫入岩の断面（屏風岩）も須佐湾の荒々しい景観をつくっている。そして、それを引き起こしたマグマ（斑レイ岩）が上昇することで隆起したのが高山である。高山の海岸沿いでは斑レイ岩体とその熱による堆積岩の熱変性過程を見ることができる。萩市の約 45 キロメートル沖に位置する見島もこの時代に形成された火山島である。離島という環境から渡り鳥の経由地になっているほか、海底では大規模に広がる溶岩流でできた瀬に魚などが多く生息し、地上も海中も特有の生態系を形成している。特に見島周辺の海域は、アジ、アマダイ、ケンサキイカなど萩を代表する魚の漁場として知られ、漁業のまちとしての萩を支えている。



須佐湾（萩市須佐）：日本海が形成される過程で海底に堆積した地層と、それを貫いて湧き上がったマグマを見ることができる。

第 4 章 現在の萩をつくったマグマの胎動

第 4 章は、約 200 万年前から（第四紀）の島弧としての火山活動を引き起こしたマグマの活動である。



畳ヶ淵（萩市弥富）：阿武火山群の一つイラオ火山が流した溶岩流を見ることができる。

萩ジオパーク構想のエリア内には活火山としては日本で数少ない単成火山が約 50 箇所に分布している（阿武火山群）。その多くが、噴出した溶岩で台地（溶岩平頂丘）を形成しているのが特徴であり、各地で平坦な地形を利用した台地農業が盛んである。また、川をせき止める形で噴火した火山も多く、せき止湖が干上がってできた盆地も稲作などに利用されている。萩六島も同じく阿武火山群の一部であり、平らな

島々が日本海に並ぶ萩特有の景観を生み出している。島においても台地農業が盛んで

あるが、海中に沈んだ溶岩流の高まりの周辺に多様な生態系があることで漁業も盛んである。



萩六島（萩市笠山より）：阿武火山群のうち水没した溶岩平頂丘が島として見えている。

1箇所ですら1度の噴火しかしない小さな火山が点在するという単成火山群の性質によって、萩は農業も漁業も発展することができたともいえる。この時代のマグマの活動は阿武火山群だけではない。島根県の津和野から瀬戸内側に分布する青野火山群は、約60万年前から活動した島弧火山である。その一部である野坂山や青野山が噴火の際に形成したせき止湖が、現在の徳佐盆地である。このせき止湖が決壊し、日本海に注ぐ河口に形成された三角州は、約400年前に萩城下町が築かれた地であり、今もなお文化の中心地として栄えている。このように、萩における文明の発展にはこの時代のマグマ活動が非常に深く関わっている。



長門峡（山口市阿東～萩市川上）：

野坂山などの噴火が原因でできた古徳佐湖が決壊し、流れ込んだ阿武川がつくった溪谷。

萩においては、特にマグマの活動によって生み出された独特な地形や地質が萩を特徴づける豊かな生態系と多様な産業を生み出したことがわかる。

このマグマの胎動がつくり出した環境が、江戸時代に西日本有数の大都市に成長した長州藩の繁栄を支え、のちの明治維新の胎動へと続いていったと言える。



萩城下町：萩の文化の中心地は火山活動によってつくられた土地に築かれ、マグマの活動によってもたらされた恵みに支えられて発展した。

（２）萩ジオパーク構想の範囲とジオサイト

現在、萩ジオパーク構想の範囲は、山口県萩市及び阿武町の全域及び山口市阿東地域である。これは、平成の大合併により市町村が再編される以前の旧萩市と旧阿武郡全域で示される。

萩ジオパーク構想内のジオサイト（※1）は、55箇所（平成29年12月現在）としている。

また、これらに関連する生態系サイトや文化サイト、ビューポイント、関連施設等の重要なサイトも存在している。

今後、ジオサイト及び関連サイト等を決定するとともに、これらサイト等の整備や保全、活用の仕組みづくりが必要となってくる。また、サイト等の新たな発掘と調査・研究も併せて実施する必要がある。

※1 ジオサイトとは

ジオパークのジオサイトは、学術研究論文などで学術的な価値が承認されている地形・地質・岩石などが存在する場所のうち、ジオパークとして保全の対象とする場所のことです。

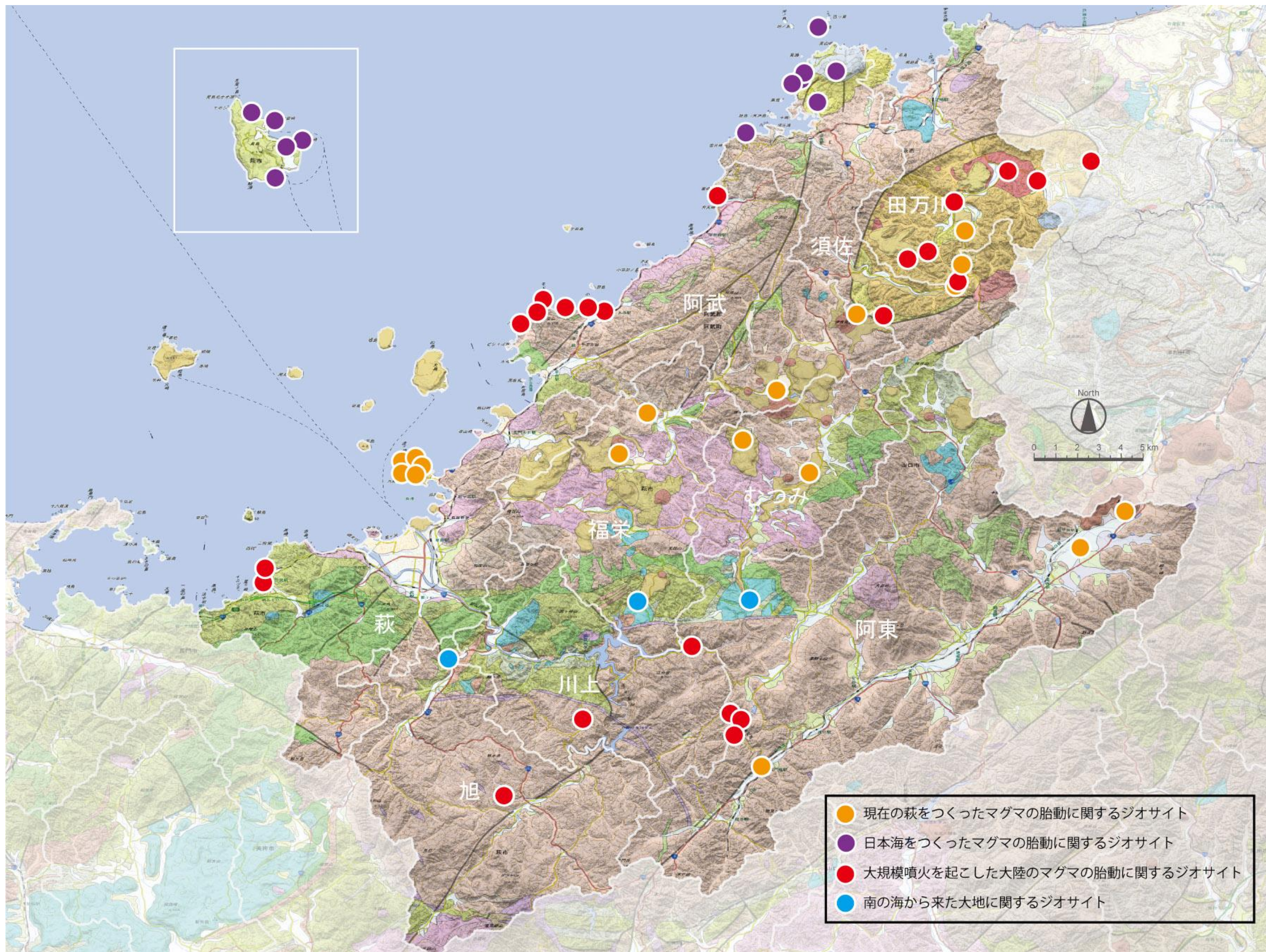


図 3-2
萩ジオパーク
構想の
ジオサイト
位置図

地質年代		ステージ		地質系統		管理記号		ジオサイト名		地域		保全対象		サイト名		地域		サイト名		文化サイト		ビューポイント	
維新とマグマの胎動の地																							
新生代	第四紀	2.6	島弧火山活動	現在の萩をつくったマグマの胎動の記憶										生態学サイト		文化サイト		ビューポイント					
				阿武火山岩（後期）	BY	BY-G001	笠山山頂火口	萩（笠山）	スコリア丘山頂火口	えび池	塩地性植物	萩（笠山）	ツバキ群生林	燃料利用、保護活動	萩（笠山）	猿屋の滝駐車場	猿屋の滝	須佐					
						BY-G002	笠山溶岩堤防	萩（笠山）	溶岩堤防	風穴（明神池奥）	寒地性植物	萩（笠山）	厳島神社・明神池	豊漁祈願、海水魚が泳ぐ池	萩（笠山）	龍鱗郷展望台	龍鱗郷	田万川					
						BY-G003	笠山縄状溶岩	萩（笠山）	縄状溶岩	おまつ谷	寒地性と暖地性植物の混在	萩（笠山）	笠山石切り場跡	笠山石の採石	萩（笠山）	上の原ヘリポート	イラオ山、上の原溶岩湖	田万川					
						BY-G004	笠山アア溶岩	萩（笠山）	アア溶岩				休労泉	トンボロ、水道	萩（笠山）								
						BY-G005	笠山かまぼこ型溶岩ロープ	萩（笠山）	溶岩ロープ				伊良尾山の湧水	伊良尾山の伏流水	阿武								
						BY-G006	イラオ火山灰露頭	須佐・阿武	イラオ火山灰層、スコリアラフト				羽月の名水	東台からの湧き水	むつみ								
						BY-G007	壺ヶ淵	須佐	イラオ玄武岩溶岩、柱状節理				三明戸の湧水	羽賀台からの湧き水	萩（大井）								
						BY-G008	猿屋の滝	須佐	イラオ玄武岩溶岩、柱状節理				阿字雄の滝	羽賀台からの湧き水、信仰	萩（大井）								
						BY-G009	龍鱗郷	田万川	未固結の河川堆積物を覆うイラオ玄武岩溶岩				円光寺穴観音古墳	縄文時代から江戸時代以前の中心地	萩（大井）								
	BY-G010	千石台安山岩	むつみ			玄武岩と流紋岩の混合				千石台神社	豊作祈願、千石台の開拓	むつみ											
	BY-G011	伏馬山スコリア丘	むつみ	スコリア丘				西見山八幡宮	鍋山石の利用（灯籠、石段、牛）	福栄													
	BY-G012	鶴巻池	福栄	紫雲山の玄武岩溶岩流と基盤の白亜紀花崗岩				葉たばこ共同乾燥施設	台地農業の文化	萩（大島）													
	BY-G013	鍋山	福栄	溶岩ドーム				「の」の字の石垣	斜面集落の文化	萩（大島）													
	BY-G014	宇生賀の埋もれ木	阿武	せき止湖の堆積物、埋もれ木				共同井戸	水の確保と文化	萩（大島）													
		阿武火山岩（前期）	BO																				
		青野火山岩（後期）	AY																				
		青野火山岩（前期）	AO	AO-G001 野坂山 AO-G002 徳佐盆地 AO-G003 丁字の出合	阿東	阿東	河川争奪による古徳佐湖の消失、徳佐一地福断層のカタクレーサイト帯、断層ガウジ																
	新第三紀	23	日本海の形成	日本海をつくったマグマの胎動の記憶										生態学サイト		文化サイト		ビューポイント					
山陰火山岩				SN	SN-G001	本村漁港西海岸	萩（見島）	火砕丘断面	渡り鳥の中継地	山野の鳥、水辺の鳥、猛禽類	萩（見島）	ジーコンボ古墳群	国防の前線基地？	萩（見島）									
					SN-G002	日崎	萩（見島）	安山岩岩脈	八里ヶ瀬	岩礁生態系、対馬暖流の分岐流	萩（見島）	見島土	萩焼の陶土	萩（見島）									
					SN-G003	イタジキ	萩（見島）	スコリア丘を覆う溶岩台地				見島牛産地	日本在来牛	萩（見島）									
					SN-G004	観音崎	萩（見島）	ひとつのマグマだまりの一連の噴火でできた地層															
					SN-G005	見島北東海岸	萩（見島）	ビクライト玄武岩、火山弾、割れ目噴火、捕獲岩															
山島火山岩				YV	YV-G001	山島	須佐																
高山斑レイ岩				KG	KG-G001	高山磁石石	須佐	高山斑レイ岩				須佐湾と町並み	高山の隆起でつくられた入り江、漁師町、北前船	須佐	高山山頂展望台	須佐湾	須佐						
					KG-G002	須佐ホルンフェルス	須佐	高山斑レイ岩の貫入によるホルンフェルス				江崎湾と町並み	高山の隆起でつくられた入り江、漁師町、北前船	田万川	つわぶきの館駐車場	須佐湾	須佐						
					KG-G003	屏風岩	須佐	ドレライトの貫入断面															
須佐層群	SU	SU-G001	壺岩	須佐	砂岩泥岩互層（陸棚堆積層）、生痕化石																		
		SU-G002	海苔石	須佐	阿武層群と須佐層群の不整合																		
SU-G003		平島礫岩層	須佐	須佐層群の基底礫岩																			
古第三紀	66	火山ー深成活動	大規模噴火を起こした大陸のマグマの胎動の記憶										生態学サイト		文化サイト		ビューポイント						
			田万川火山岩	TV	TV-G001	千足	田万川	田万川カルデラのカルデラ湖の湖底堆積物															
					(TV-G002)	(黒周)	(益田市)	大規模に噴出し田万川カルデラで最も広く分布する火砕流堆積物															
					TV-G003	宇谷	田万川	最初に噴出した安山岩溶岩とそれを貫く安山岩岩脈															
					TV-G004	通永の滝	須佐	最初に噴出した安山岩質火山角礫岩															
					TV-G005	蒲原	須佐	陥没に伴って噴出した流紋岩質火山礫凝灰岩															
			田万川花崗岩	TG	TG-G001	小川	田万川	カルデラに伴う典型的な黒雲母花崗岩															
					TG-G002	土床	田万川	熱水変質・脱色作用を受けた白色花崗岩															
					TG-G003	鈴野川河床	須佐	田万川カルデラ基盤の花崗閃緑岩															
			阿武層群	AB	AB-G001	惣郷海岸	阿武	安山岩溶岩、山陽帯花崗岩の貫入、ルーフペンダント、高山斑レイ岩の活動に伴うドレライト岩脈															
AB-G002	清ヶ浜	阿武			流紋岩、鳴き砂																		
AB-G003	小松ヶ谷川沿い	旭（佐々並）			佐々並カルデラのデイサイト質溶岩、岩脈						佐々並市	カルデラの中心の宿場町、萩往還	旭（佐々並）	台山	佐々並コールドロン、佐々並市	旭（佐々並）							
AB-G004					佐々並カルデラの流紋岩質溶岩																		
AB-G005					佐々並カルデラのデイサイト質一流紋岩質凝灰岩、火山礫凝灰岩																		
AB-G006	笹尾川河床	旭（明木）			佐々並カルデラ湖の凝灰質シルト岩																		
AB-G007					佐々並カルデラの流紋岩質溶結凝灰岩																		
AB-G008	第2断魚瀬	川上			流紋岩質溶結凝灰岩																		
AB-G009	下和留瀬	川上			溶結凝灰岩、柱状節理																		
AB-G010	鈴ヶ茶屋周辺河床	川上			節理																		
AB-G011	重嶺岩	川上			凝灰岩																		
山陽帯花崗岩	SG	SG-G001	モドロ岬	阿武	マグマ混交	指月山の照葉樹林	花崗岩地域の植生？	萩	指月山石切り場跡	指月石の採石	萩	重嶺岩駐車場	重嶺岩	川上									
		SG-G002	ウツツリ	阿武	マグマ混交、ルーフ接触				金峯土	萩焼の陶土	福栄	清ヶ浜駐車場	小礫の鼻、ウツツリ、モドロ岬、清ヶ浜砂丘、木与の棚田	阿武									
		SG-G003	小礫の鼻	阿武	マグマ混交、シート状構造																		
中生代半深成岩	MH	MH-G001	西の浜	萩（三見）	ひん岩																		
関門層群（火山岩優勢層）	KV	KV-G001	大平瀬	阿武	マントル起源安山岩																		
関門層群（堆積岩優勢層）	KS	KS-G001 KS-G002	遠岳山西海岸 仙毒の幕岩	阿武 萩（三見）	大陸縁辺の河川成堆積物 大陸縁辺の河川成堆積物							三見漁港	仙毒の幕岩	萩（三見）									
ジュラ紀	200 252	付加体の形成	南の海から来た大地の記憶										生態学サイト		文化サイト		ビューポイント						
			麓足層群	KA					ジュラ紀付加体														
			錦層群	NS																			
白亜紀	145	火山ー深成活動	阿武川層群	AG	AG-G001	瓜作	旭（明木）	ベルム紀付加体、チャート															
			半田石灰岩	HL	HL-G001	半田石灰岩	福栄	ベルム紀付加体、石灰岩															
			蔵目喜石灰岩	ZL	ZL-G001	蔵目喜石灰岩	阿東	ベルム紀付加体、石灰岩															
古生代	ベルム紀・石炭紀	299 359	付加体の形成																				
表3-1 萩ジオパーク構想におけるジオサイト等一覧表（平成29年12月現在）																							
										生態学サイト		文化サイト		ビューポイント									
										姥倉運河	三角州の洪水対策、水運	萩	笠山山頂展望台	萩六島、見島、萩三角州、指月山、遠岳山	萩（笠山）								
										浜崎の町並み	砂丘上の町並み、漁村、御船蔵	萩	田床山山頂展望台	萩三角州	萩								
										堀内の町並み	火山につくられ火山に支えられた城下町	萩	陶芸の村公園	萩三角州	萩								
										平安古の町並み	火山につくられ火山に支えられた城下町	萩	太鼓湾	阿武川の分岐	萩								
										城下町の町並み	火山につくられ火山に支えられた城下町	萩	菊ヶ浜	指月山、菊ヶ浜砂丘、笠山、萩六島	萩								
										旧湯川家壁敷	藍堀川、水運、三角州の暮らし	萩											
										土原の蓮田	萩三角州低湿地の利用	萩											
										萩焼古窯跡群	萩焼	萩											

(3) これまでの活動の経緯と成果

萩市では、平成 26 年 4 月 1 日より地学専門員を萩博物館に置き、ジオパークの取り組みを開始した。

年月日	できごと
平成 26 年 4 月 1 日	萩市として日本ジオパーク認定に向けた取り組みを開始 萩博物館の地学専門員（非常勤特別職）として永尾隆志氏を招聘
平成 26 年 9 月 24 日	日本ジオパークネットワークに準会員として加盟
平成 26 年 10 月 10 日	萩市総合政策部企画政策課にジオパーク推進室を設置 専任の室次長を配置
平成 27 年 4 月 30 日	萩ジオパーク構想推進協議会設立総会を開催
平成 28 年 3 月 22 日	萩ジオパーク構想推進協議会臨時総会において、日本ジオパークネットワークに対し正会員加盟申請を行う方針を決定 山口市、阿武町がオブザーバーとして参加
平成 28 年 4 月 1 日	ジオパーク推進室からジオパーク推進課に昇格し、 萩市まちじゅう博物館推進部に設置
平成 28 年 4 月 14 日	日本ジオパークネットワークに対し、正会員加盟（日本ジオパーク認定）申請書を提出
平成 28 年 5 月 21 日	日本ジオパーク委員会新規認定申請地域プレゼンテーション（千葉県幕張市）に参加
平成 28 年 8 月 7～9 日	日本ジオパーク委員会により新規認定の現地審査が実施
平成 28 年 9 月 9 日	第 28 回日本ジオパーク委員会開催 委員会での審査の結果は認定見送り
平成 29 年 3 月 4 日	萩・明倫学舎本館に萩ジオパークビジターセンターをオープン
平成 29 年 4 月 1 日	萩市ジオパーク推進課（萩ジオパーク構想推進協議会）内に専門員を配置
平成 29 年 7 月 9 日	萩ジオパーク構想推進協議会臨時総会において、戦略顧問を置くこと等の規約改正を議決
平成 29 年 8 月 1 日	日本ジオパーク認定の実現に向け、ジオパーク推進課を萩市総務企画部内に移設
平成 29 年 9 月 26 日	「萩ジオマスター講座」を開始（毎年全 12 回）し、市民を対象としたジオガイド育成を開始
平成 29 年 12 月 日	萩ジオパーク構想基本計画・行動計画を策定

(4) 協議会の設立から今日まで

① 萩ジオパーク構想推進協議会

この協議会は、ジオサイトの保全並びに教育及び地域振興における活用を図るジオパーク活動を推進することで、地域が活性化し、潤う仕組みをつくり、もって持続可能な発展を目指すことを目的とし、平成27年(2015)4月に結成された。

また、構想の範囲は阿武町や山口市に及ぶことから、2市1町の行政団体や市民ガイド活動団体等もこの協議会に参画し、共にジオパーク活動の活性化と地域の魅力発信、日本ジオパーク認定の実現に協働する体制を確保しているが、今後、より強固な連携を持って進めていくことが求められる。

萩ジオパーク構想推進協議会構成メンバー (50音順)

個人会員 53名 (平成29年11月現在)

関連団体

あぶらんど萩農業協同組合、NPO あとう、NPO 萩観光ガイド協会、NPO 萩まちじゅう博物館、至誠館大学、須佐おもてなし協会、萩・阿西商工会、萩阿武商工会、萩温泉旅館協同組合、萩ケーブルネットワーク(株)、萩市観光協会、萩市教育委員会、はぎ時事新聞、萩市小学校長会、萩市中学校長会、萩商工会議所、萩ものしり修士・博士の会世話人会、萩ユネスコ協会、山口県漁業協同組合

行政機関

阿武町、萩市、山口県、山口市

学術顧問

国立大学法人山口大学、徳山大学、ほか

また、この協議会内には、3つの部会(教育・普及部会、地域振興部会、保全部会)を設置している。この部会は、地域の声を形にするため協議会内での合意形成を図り、具体的な事業に落とし込んで、地域のジオパーク活動に反映していく。

教育・普及部会

ジオパーク関連施設の展示資料等の作成、小中学校での使用教材の作成支援
公民館等への出前講座の実施など

地域振興部会

ガイドの養成、ジオツアーの商品化検討、地域会議の開催、各地域のジオパーク活動の掘り起こし、地域のネットワーク構築など

保全部会

ジオサイトの保全の方針決定、ジオサイトの保全に関する地域住民との連携など

協議会役員

(平成 29 年 12 月 現在)

No.	役職等	氏名	所属団体・役職等
1	会長	藤道 健二	萩市長
2	副会長	中村 和末	
3	副会長	木村 靖枝	
4	副会長	山本 隆志	須佐おもてなし協会会長
5	監事	白神 崇	
6	監事	椎木 耕司	NPO あとう理事長
7	教育・普及部会部会長	中村 哲夫	萩市教育委員会教育長
8	地域振興部会部会長	森田 哲弘	萩阿武商工会副会長
9	保全部会部会長	須子 義久	NPO 萩まちじゅう博物館理事長

② 萩ジオパーク構想地域会議

萩ジオパークの実現と持続的な活動の主体（主人公）は地域住民である。この基本計画・実行計画をはじめ、地域住民の思いや意見を集約し、協議会に反映する必要があることから、平成 17 年以降の合併前の旧市町村単位をベースに地域会議を定期的に行い、地域が抱える課題など意見を聴取した。

地域住民が主導して、事業を展開することが本物の地域振興に繋がることから、今後は、地域の意見が事業化・予算化され地域に還元されていく仕組みを構築していく必要がある。

また、各地域の取組みを地域間相互に情報交換・共有する環境を整え、萩ジオパーク活動全体のベースアップを図っていく取組みが求められる。



萩地域会議の様子
(平成 29 年 10 月 6 日)

③ ジオパーク活動への住民参画の入口「萩ジオカフェ」

協議会では、平成 28 年 12 月より、萩ジオパーク活動の住民参加を目的に「萩ジオカフェ」と称し、語り合う環境をつくった。

毎月 1 回開催し、ジオパークに興味・関心のある人が、ジオパークについて学び、参加者同士で萩のジオパークで何がしたいか、どう関わり行動するかを気軽に話すスタイルで展開している。



ある日のジオカフェの様子
(平成 29 年 6 月 15 日)

④ 行政との連携

萩ジオパーク構想の推進には、ジオサイトの保全整備、来訪者の理解増進に向けた情報発信拠点や駐車場・トイレ等の整備等のハード整備事業が必要となってくることから、2市1町の関係課との調整が必要不可欠である。萩市では、「萩市ジオパーク推進戦略会議」と称したジオパーク推進のための行政関係部局会議を置き、推進事業の普及・調整・事業展開などを実施していく。今後とも、協議会と行政とが一体となり、この計画実現に向けた事業展開を図っていく。

教育委員会との連携では、学校教育の現場におけるジオパークの取り組みを推進するために、自然分野の副読本制作を主眼とするワーキングチームとして、平成27年1月に萩市教育委員会が「萩ジオパーク構想推進プロジェクト」推進委員会を立ち上げ、先進的な取り組みを行ってきた学校教員を委員に委嘱した。推進委員会での議論の中で、まずは教員自身を含め、「学校・教員への周知を図ることが必要である」として、萩のジオサイト候補地の現地見学会を開催した。また、委員会メンバーによる地域資源を使った公開授業や教材の作成を行ってきた。

この推進委員会をきっかけとし、各校での取り組み強化を検討したことにより、当推進協議会の教育・普及部会へと発展した。部会員に市内全小中学校から推薦された教員を充て、より学校現場での取り組みを促進している。



萩市職員を対象とした研修会の開催
(平成29年7月13・14日)

（５）今後の課題

① ジオサイトの保全

設定したジオサイト所有者（管理者含む）、地域住民、利用者、研究者、行政、その他団体等との理解増進・連携した保全の取組みが求められる。

そのためにも、各ジオサイトの保全のためのルールづくり（保全計画の策定）が急がれる。

② 地域の教育活動

（１）学校教育

萩市学校教育の基本方針の中心目標では、「ふるさと萩を誇りとし 志を抱き生きる力をもった子どもの育成」を掲げ、ふるさと学習の一環でジオパーク学習を進めている。また、前述のとおり協議会において教育・普及部会が結成され、各学校での普及・推進体制が整備されたが、現状では、まだ学校単位での取組に差がある。

教職員に対して、ジオパーク及び萩ジオパーク構想への理解を深め、総合的な学習のほか、理科、社会などの教科でジオパーク学習に積極的に取り組むことが課題である。

また、萩市管内だけに留まっており、今後は阿武町、山口市阿東地域での取り組みを行う必要がある。



萩市立明木小学校出前講座の様子
（平成 29 年 6 月 19 日）

（２）社会教育・生涯学習

萩のジオパークについて学ぶ機会として、公民館等の各種講座の活用が十分できていない。また、地域住民が「地域の子どもは地域で育てる」を合言葉とした活動を行う場合の手法の一つとして、ジオパークを活用する必要がある。

③ 普及啓発活動

まずもって、もっと地域住民に「萩のジオパーク」を知ってもらうことが肝要である。そのためには、この「萩ジオパーク構想」の特徴やジオサイトの情報、広く地域住民にその土地の成り立ちや産業とのつながり、そして目指すべき将来像や目標などをしっかりと発信していく必要がある。

平成 29 年 3 月 4 日萩・明倫学舎内に開館した萩ジオパークビジターセンターをはじめ、協議会のホームページやパンフレット、メデ



平成 29 年 3 月 4 日に開館した「萩ジオパークビジターセンター」

ィアを用いた広報等を通じて普及・啓発していくことが求められる。

④ 調査・研究活動

萩のジオパーク関連の学術的研究は、まだ不足している。今後、近隣の大学等さまざまな研究機関と連携して、必要な研究を計画的に実施していかねばならない。

⑤ ジオツーリズム活動の促進

各ジオサイトを説明できるガイドは各所に存在するものの、ジオパーク的視点からのガイドランスについては、まだ不十分である。より充実した萩のジオツーリズム活動を実現するためには、まずしっかりとした人材育成が求められる。

このことから、今年度より「萩ジオマスター講座」を開始し、萩のジオパークについて学ぶ環境ができた。今後は、このマスター講座修了後に、修了者を対象としたジオガイドの育成を計画している。ジオツアーの早期実現とツアーの定番化に向けた取組みを計画的に実施していく。



萩ジオマスター講座（第1回）の様子
（平成29年9月26日）

⑥ 地域の活性化

ジオサイトのある地域は中山間地域が主で、どの地域も過疎・高齢化が著しいことから、未来へ向けた地域コミュニティの維持・存続が不安視されている。ジオパークの視点から地域の魅力を再発見することで、地域の活力となるような取組みが必要である。

⑦ 地域住民からの「声」（地域会議での意見）

萩ジオパーク構想実現のための行動主体はその地域に暮らす住民であることから、地域住民が感じる課題や不安要素（地域の声）を把握する必要がある。萩市はこれまでも各地域（合併前の旧市町村単位）で、地域会議を2回開催し意見を集約している。

以下に、会議等での住民の意見を整理した。

課題	課題の分析	取り組む方向
普及啓発		
地域の熱意が重要だが、ジオパークに限らず、あまりにも地域のことを知らない。	まず「ジオパーク」という言葉を知ってもらう必要がある。	あらゆる機会を通じてジオパークの説明を行っていく。
	アクティビティを入れて分かりやすく伝える。	仕組みを可視化し、イメージしやすい教材・体験等を作成する。
	皆の認識がバラバラなので認識を統一する必要がある。	学習を通じて認識を統一できるようにしたい。
		ジオサイトのストーリーを整理し、学ぶ環境づくりを行う。
		地域内・地域間どうしの情報交換の場が必要である。
	反対に、地域住民しか知らない「面白い」ストーリーが眠っている。	ジオパークの深みを増すストーリーの発掘、頻繁に地元との情報交換の場を用意する。
観光振興・産業振興のためには内外に向けた情報発信が重要である。	ジオをテーマにして、誰でも自由に集まれる機会や場所が少ない。	毎月「ジオカフェ」を実施しているが、もっと集まる人を増やす取り組みが必要である。
		ジオガイドの研修や情報交換のできる空間・場所の確保・提供が求められる。
	Web サイトがあり SNS も使っているが魅力が十分伝わらない。	協議会が運営する Web サイトの改善が必要。
		You Tube を活用して、動画等の制作。
		Facebook 等 SNS を利用した広報発信の頻度と質の充実が求められる。
		ドローンによる空撮映像・画像を WEB で紹介・発信する。
	HP に限らず、あらゆるプラットフォームを利用した情報発信が必要である。	来訪者が写真投稿できるサイトの開設など、参画できる仕組み。
		各地域の「おたからマップ」を活用して、見どころを紹介する。
	パンフレットやマップを充実しなければならない。	萩ジオパーク構想のポスターの見直しが必要である。

		書き込みができる観光パンフレット・リーフレットを作成する。
	あらゆる情報発信を活用した取り組みが必要である。	写真コンテスト・コンクール開催を検討する。
		ジオパークを紹介するマンガの作製を検討する。
		ジオを身近に感じるグッズ作製を検討する。
		農水産物を萩のジオの産物として紹介する。
観光振興（ジオツーリズム）	[ネットワーク]	
美しい自然景観、文化遺産、観光農園など、現在でもたくさんの地域資源があるが、十分活用されていない。	地域の資源を一つ一つ点として見るだけでは魅力が伝わらない。	地域の資源を線で結びネットワークとすることで魅力をアップしたい。
		歴史や文化の資源も大地とのつながりを意識して結びつけることができる。
		地域の資源をネットワークで結び、周辺地域も盛り上がるようにしたい。
		地域資源を組み合わせ利用するには「体験ツアー」が有効。繰り返すことでリピーターも期待できる。
	[ターゲット]	
	「自然観光」を嗜好する観光客は、年齢の高い層が中心であり、ファミリー層等への広がりが限られる。	大地のことを「学ぶ」観光と大地のめぐみである「食」をバランス良く取り上げることで幅広い年齢層をターゲットにできる。
		リピーター獲得のために、時間にゆとりのある年配層も意識すべきではないか。
	ジオツーリズムは地学教育的なもの、難解なものというイメージがあり、広く楽しめる観光につながらない。	説明を物語風にし、大地のめぐみを紹介することで広く受け入れられるものにできる。
	[ジオガイド]	
	景色を楽しむだけの観光では一度訪れれば二度と訪れないのではないか。	地域資源を結び付け、ジオガイドがストーリーを語ることで、より深い観光になり、リピーターを生むことにつながる。

		これまで景勝地として知られているところでもジオガイドがいろいろなストーリーを魅力的に伝えることで新しい誘客につながる。
	新しくジオガイドを養成する必要がある。	ガイド養成講座の開催を。また、実際のツアーに同行するなどジオガイドについて知ることが重要である。
		歴史・文化系のガイドも得意な分野でジオパークに関連して説明できるようにすればジオガイドとして活躍できる。
		樹木医など専門的な知識を持った人が同行すると、専門家ならではの面白みがあるので紹介する仕組みが必要ではないか。
		ガイドは伝えたいストーリーだけでなく見える範囲の産物や暮らしなどの情報も説明できるようにしたい。
		ガイドどうしで教え合い、勉強会を開催するなどしてレベルを上げたい。
		ガイドでは今の人が知りえない年配の方のちょっとした話を取り上げると魅力が増す。
景観（ロケーション） スポットの発掘、管理 保全、活用	船や空からの映像など様々な視点でジオサイトが見られると良い。	ヘリコプター遊覧飛行体験などで萩のジオパークの魅力発信につながるのではないかと。
		長門峡や須佐湾遊覧船以外での遊覧スポットの検討とこれまでの効果を実証する必要がある。
	眺望ポイントの維持・管理が必要である。	景観障害となっている、高木の伐採や剪定等の管理が必要である。
	季節や時間によるジオサイトの絶景スポットがある。これを伝える必要がある。	サイトごとのベストショット、ベストポイント、ベストシーズンを発掘し、紹介する。
見学だけでなく体験・体感希望の観光客が増えてきている。また、	新しい観光ニーズを把握し対応する必要がある。	体験・体感志向の観光客が満足できるように地域資源を活用する。
		観光専用バス「ジオバス」（仮称）を検討する。

旅行も団体型から個人型にシフトしている。	ジオサイトへの公共交通によるアクセスが不便である。	タクシー定額料金制などの商品プランを検討する。	
	市内に観光客に楽しんでもらえる体験型の施設が少なく、その対策が必要である。	既存の施設やプランを含めアクティビティのメニューを作成し紹介する。	
産業振興（ブランド化、商品開発等）			
ジオサイト見学から、地元の食や産物へと繋げる取り組みが必要である。	地元の名産や食が大地とどう関わっているのかを再確認し、活かす取り組みが必要である。	お土産	大地をテーマにした商品の開発を検討する。
		萩焼	土が与える焼物の魅力という付加価値をつける。
		魚	溶岩が生み出した海岸地形との関係性を証明する。
		郷土料理	その土地の古くからの産物と地域性が生んだ価値の整理とその魅力を発信する。
		酒	土・水・米・麴などその土地が生んだ地酒の魅力を発信する。
		果物（柑橘等）	地形や土壌との関係を伝えることが必要である。
		スイーツ	萩のジオパークならではの、商品開発を検討する。有名パティシエとのコラボなども検討する。
周辺地域では過疎化・少子高齢化が進み、担い手不足が深刻化し、地域の主要産業である農林漁業も立ち行かなくなっている。	農林漁業だけでは生計を立てることが難しく後継者が育たない。	農林漁業とジオツーリズムを結びつけることで新しい経済効果を生ませる。	
		ジオツーリズムで地域で力を入れている産品を取り上げてもらいたい。広く経済効果が期待できる。若者定住にもつながる。	
		情報発信が重要である。	

4. 萩ジオパーク構想の将来像（基本計画）

私たちは、萩ジオパーク構想の実現と、持続可能な地域づくりを行うために基本計画を定め、協議会はもちろん地域住民と広く目標を共有し、ジオパークの活動を行う。

（１）将来像（ヴィジョン）

地球の視点で「萩らしさ」が”見える” ”伝わる” まち

私たちは、これまで歴史の町として先人から引き継いだ萩らしい歴史や文化の保全に力を注いできました。

それは言い換えると、萩の大地の特徴を理解し、土地にあった暮らしを模索してきた人々の試行錯誤の記憶が失われることなく残っているということです。

私たちは、ジオパークの活動を通じて、萩で繰り広げられてきた大地と人の共生の姿を紐解き、人間社会を脈々と続く地球活動の一部として捉えなおすことで、萩らしさを根源から理解し、新たな価値観を創造します。そして、萩の大地により適した形で発展させて未来の世代に引き継ぎます。

（２）活動の目標

① 地球目線で萩を『知る』（調査・研究、普及啓発・探求の取り組み）

萩らしさとは何かを認識しよう！

この地に暮らす誰もが自分が住んでいる土地の成り立ちと関係を語ることができるまちにする。

② 地球目線で萩を『守る』（保全活動の推進）

萩らしさを磨き、輝き続けるふるさとを残していこう！

ジオサイトを正しく守り続ける仕組みをつくっていく。
地域住民と共に日常的に保全に携わり、未来へ伝えていけるまちにする。

③ 地球目線で萩を『創る』（産業振興・地域おこし）

萩らしさは私たちが創る！

このまちの至るところでジオツアーが定番化し、そこに新たな雇用が生まれる環境をつくる。

④ 地球目線で萩を『伝える』（教育、観光振興）

萩らしさを表現しよう！

「見る」・「遊ぶ」・「食べる」これら全てで大地のつながりを感じられるまちを創造する。

⑤ 地球目線で『繋がる』まちへ（ネットワーク連携）

*「大地と人」「人と人」「地域と地域」がつながる場を創ろう！
「過去と現在、そして未来」がつながる活動をしよう！*

ジオパーク内で横の繋がりが生まれ、地域間の交流が活発化するまちをつくり、ジオパーク間のネットワークが広がる活動を展開する。

(3) 萩ジオパーク構想の推進体制

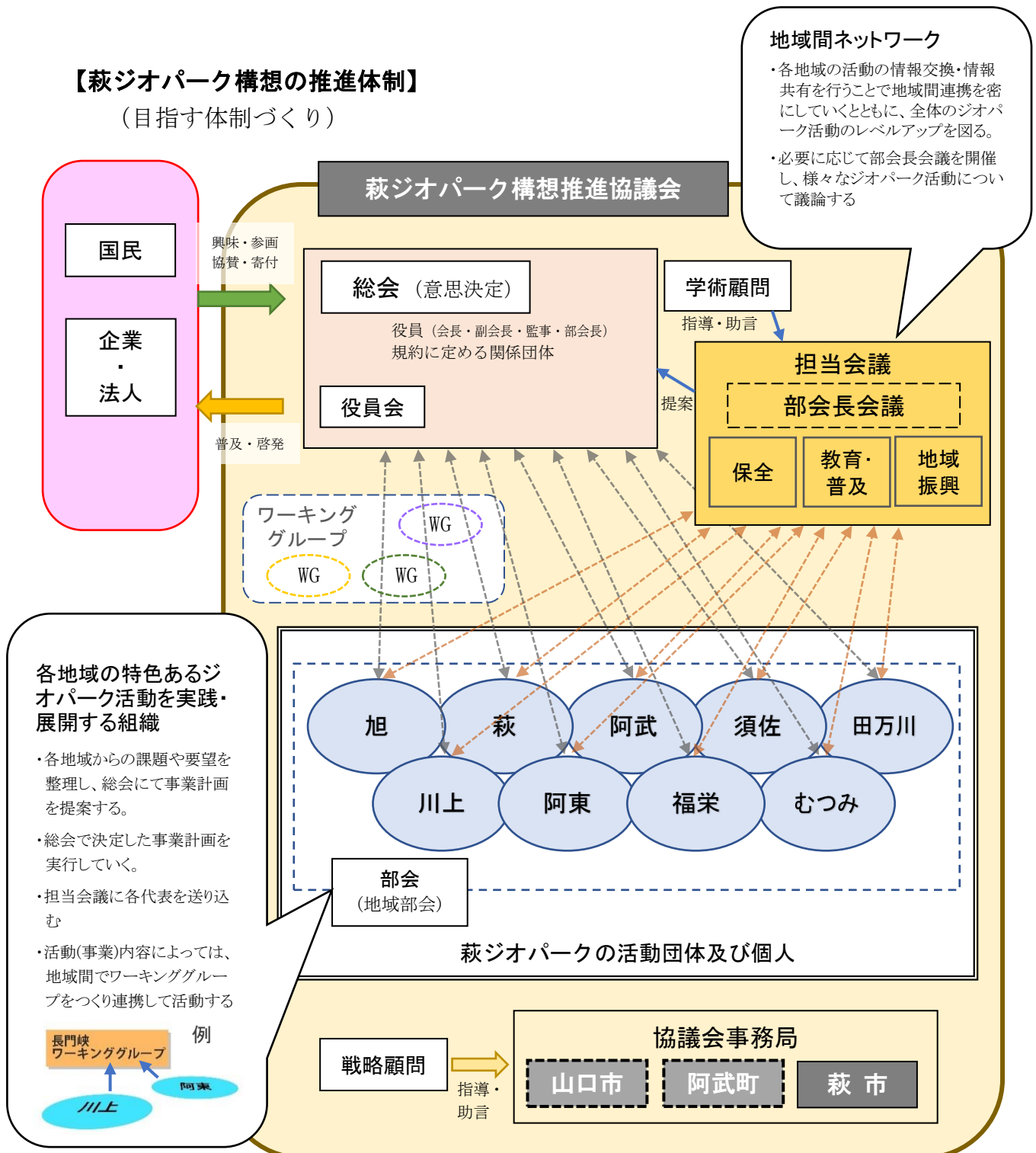
萩ジオパーク構想では、広くその価値や楽しさを地域住民や来訪者に理解してもらうため、協議会では、今後も様々な活動を展開していく。

そのためには、この構想実現に向けた萩ジオパーク構想推進協議会のより良い体制づくりが必要であり、その体制の維持と進化・発展が求められる。

目指すべき推進体制を以下の図にまとめる。

【萩ジオパーク構想の推進体制】

(目指す体制づくり)



5. 萩ジオパーク構想実現のための実行計画・行動計画

(1) 実行計画

前章で定めた構想の将来像を確実にかつ計画的に実施するために、活動目標の5項目に対し、以下の短期的な目標を定め、実現に向けた具体的な取組みを行う。

1 地球目線で萩を『知る』取組み

ジオパークの教育に携わる人材の育成とその仕組みを完成させる

① 萩ジオマスターを養成する

- 1 地域住民のジオパークへの興味を深め、活動への参画を目指し、年間を通じて「萩ジオマスター講座」を開催する。

② 萩ジオマスターが活躍する場をつくる

- 1 萩ジオマスターから人材を募り、ジオガイドを養成する。
- 2 地域の社会教育活動に「萩ジオマスター」が参画し、講演・解説等を行う。

③ 学校におけるジオパーク利用ガイド・プログラムを作成する

- 1 授業に「ジオパーク」を取り入れる。
- 2 山口県内の子どもたちに学ぶ環境を用意する。
- 3 萩博物館と連携した教育プログラムをつくる。
- 4 火山実験や柱状節理のでき方など学校教育や体験ツアーのための「萩のジオパークらしい」教材を用意する。
- 5 ジオサイトだけでなく、自然（生態）・文化遺産を含めた活用を行うため、解説・案内、ガイダンス、教育プログラムを展開する。
- 6 ビデオ、スライドショー等の映像資料を作成し、あらゆる場面で視聴できる環境をつくる。
- 7 ジオパークビジターセンターの展示を定期的に更新し、最新情報を提供する。

④ 学校教員向けジオパーク利用研修を行う

- 1 地域内の教員向けの研修プログラムを実施する。
- 2 山口県内の教職員を対象とした学習会の場を提供する。

⑤ ジオマスター・ジオガイド主体の授業や研修会を行う

- 1 ジオパークのエリアを訪れた子どもたちが、個別に参加できるプログラムを制作・実施する。

- 2 小学生向けプログラムを制作・実施する。(エリア内、県内、県外ごと)
- 3 中学生向けプログラムを制作・実施する。(エリア内、県内、県外ごと)
- 4 高校・大学生向けプログラムを制作・実施する。(エリア内、県内、県外ごと)
- 5 社会教育・生涯学習プログラムを制作・実施する。(エリア内、県内、県外ごと)

⑥ 調査・研究の促進と環境づくり

- 1 研究者の研究目的のための各種申請書作成支援を行う。
- 2 研究者の要望に合わせて現地案内できる環境を整える。
- 3 博士論文が発表される環境づくりを行う。
- 4 地域内の学術研究の成果をまとめたデータベースを作成する。また、その情報を公開し、資料収集がしやすい環境をつくる。
- 5 定期的にアンケート調査等を行い、来訪者情報を把握する。また、調査結果を分析し、今後の活動等に反映させる。

2 地球目線で萩を『守る』取組み

各ジオサイトの保全方針を決定する

① 守るべきジオサイトを設定する

- 1 ジオサイトを研究成果に基づいて設定し、それを進化・発展させる
- 2 保全会議（サイトの劣化に対する協議の場）を開催する。
- 3 萩ジオパークにおける地球活動の記憶の理解に必要な自然サイト、文化サイトを設定する。
- 4 ジオサイトの保全のためのルールを設ける。また、そのルールを周知する。

② ジオサイトカルテを作成する

- 1 地質年代・岩石の種類・特徴をリスト化する。

調査・研究に基づき、萩ジオパークの顕著な地質学的特徴、顕著な地形学的特徴を持つものがエリア内にどれだけあるか、また、それらの地質年代や岩石種類をリスト化し、常に最新の情報を保持する。
- 2 国際的に特徴的なジオサイト、国内で特徴的なジオサイトなどジオサイトの分類分けを行う。
- 3 教育的に意義のあるジオサイトをリスト化し学校教育等に活用する。
- 4 ジオサイトのデータベースをつくる。
- 5 自然（生態）遺産や文化遺産をリスト化する。
 世界的な価値、日本での価値、山口県内での価値、地域での価値

③ ジオサイトに関する住民説明会を開催する

- 1 ジオサイトの基本情報を整理し、地域住民に正しく伝える。
（ジオサイトについて、保全や活用を進める上での基本情報（サイトの根拠、位置情報、範囲、土地所有者、利用・管理の実態、存続の危険性、保全の重要性、保全措置の有無、保全の担い手、個別の課題など）を整理する。）

④ ジオサイト保全計画を策定する

- 1 各ジオサイトに応じた保全計画を策定し、保全活動を実施する。
- 2 遺産の破壊防止や持ち去りの禁止等のルールを設ける。また、これを周知する。
- 3 必要に応じて、保護や研究を目的に立ち入り規制をする地域を設定する。
- 4 研究のための地質標本採取について許可区域を設けるなどルール化する。

⑤ ジオサイトの保全活動を開始する

- 1 監視・巡回（保全パトロール）を実施する。
- 2 ジオサイトの定期的なメンテナンスとモニタリングを実施する。

3 地球目線で萩を『創る』取組み

ジオツアーを商品化する

① 萩ジオガイドを養成する

- 1 萩ジオパークを来訪者へ楽しく分かりやすく伝えるためのガイドを育成するため「萩ジオガイド養成講座」を開催する。
- 2 ジオガイドには、(1) ジオパークの理念、(2) 地質学や地形学の知識、(3) 大地と人と自然のつながりに関する知識、(4) リスクマネジメントの技術等を習得してもらう。
- 3 ガイド養成において、ガイド中に自然災害が発生した際のガイドのとりべき対応を習得するための研修を取り入れる。

② モニターツアーを実施する

- 1 ジオサイトをジオツーリズムに活用する。
- 2 ジオツーリズムの中心となりうる特定の地域を創出する。
- 3 ジオパークのジオストーリーやテーマを表現するジオツアーを提供する。
- 4 ジオツアーにより地域経済が潤う仕組みを構築する。
- 5 ガイドが、過去にその地域内で起きた自然災害や、その発生要因をジオツアーの中で紹介できるようにする。
- 6 将来的には数日にわたるパッケージツアーを検討し、モニターツアーを実施

する。

③ ガイド組織を立ち上げる

- 1 ジオガイド養成とモニターツアーでジオツアーを实践したガイドによるガイド組織を立ち上げる。

④ ジオツアーを商品化する

- 1 人数を限定した、深く学べるジオツアーを年数回実施する。
- 2 地質学や地形学に特に興味のあるグループのための専門的なツアーを検討・実施する。
- 3 年間を通じて定期的にツアーを計画・実施する。
- 4 幅広い参加者を対象とした、楽しく気軽に参加できるジオツアーを年数回提供する。
- 5 悪天候によりツアーが中止になった場合に利用できる代替案を用意する。
- 6 事前の予約不要といった、参加者向けの柔軟な予約システム（当日受付可能など）を検討・運用する。ジオツーリズムにおいて交通量を減少させるための規制等の対策をとる。
- 7 ジオガイドが低廉化しないよう定期的なガイド研修を実施する。
- 8 ジオツーリズムにおいて環境に優しい散策路などの仕組みをつくる。
- 9 天候に左右されないガイドツアープログラムを用意する。
- 10 地元企業と協力したツアーを提供する。
- 11 将来的にガイド付きの自転車（サイクル）ツアーを検討し、モニターツアーを実施する。
- 12 ジオパーク内で旅行業の資格を持つ企業・団体もしくは個人と協力関係を構築する。
- 13 ジオツーリズムを継続させ、定番化させる。

4 地球目線で萩を『伝える』取組み

ジオパークを「見る」・「遊ぶ」・「食べる」ための拠点を完成させる

① ジオパークの情報を発信する

- 1 協議会のウェブサイトを設置・運営する。より有効な情報発信のためサイトをリニューアルするとともに、常に最新の情報を提供する。また、フェイスブック等のSNSと連動してタイムリーな情報発信を行っていく。
- 2 観光協会や地方自治体などの幅広い情報を提供する他のウェブサイトへリンクする。
- 3 ウェブサイトで最新の活動やジオツアー、イベント情報を公開し、気軽にエ

ントリーが可能となるようプラットフォームを整備し、運用する。

- 4 ウェブサイトでの多言語化を目指す。まずは、英語訳の環境を整え、次にフランス語、中国語（繁体・簡体）、ハングル語の環境を段階的に整備する。
- 5 C A T VやコミュニティFM等を通じて、地域の地場産品や観光名所にジオパークという付加価値をつけて紹介する番組を提供する。
- 6 地元の新聞社等とタイアップして、萩ジオパークを紹介するコーナーの連載やイベント情報を掲載する。
- 7 協議会会員向け会報誌「萩ジオパーク推協だより」を毎月1回発行し、最新の活動の共有を図る。
- 8 萩ジオパークビジターセンターをより充実するとともに、来訪者の増加と理解増進に向けたインタープリテーションを展開する。

② パンフレット・マップ、説明看板を作成する

- 1 適切な箇所に分かりやすい説明案内板を計画的に設置する。
- 2 ジオサイト、観光拠点などに読みやすい説明・案内板を掲示する。
- 3 萩ジオパーク活動を紹介するパンフレットやマップを適切な箇所に設置する。また、常に更新を行い、最新の情報を提供する。
- 4 ジオサイト地図をつくる。
- 5 萩ジオパークを説明するマップ・パンフレットを発行する。また、定期的に情報を更新する。
- 6 マップやパンフレットがいつでもどこでも入手できる環境を整える。特に、地域内各所の情報発信拠点で必ず入手することができる体制をつくる。
- 7 萩ジオパークを説明するガイドブックを発行する。
- 8 将来的に協議会が発行するマップ・パンフレット等の多言語化を目指す。
- 9 ジオサイト近隣で利用可能な駐車場を確保する。

③ 食のジオパーク的な整理を行う

- 1 ジオパークを通じ地元の食材や商品などの販売促進につながる仕組みを検討する。
- 2 ジオツーリズムにおいて地元の食材を使った料理を提供する飲食店等の情報を提供する。
- 3 地元の農林水産物や郷土料理のためのジオパーク専用のブランド制度（統一したラベルや認証制度）を設ける。
- 4 ジオツーリズムにおいて地域の道の駅や農産物直売所等と連携する。
- 5 ジオパークの地形・地質を表現した商品開発を推進する。
- 6 イベント等で地元の食材や商品を販売できる機会を提供する。

④ 体験のジオパーク的な整理と開発を行う

- 1 ジオツーリズムにおいて地域で体験・体感できるコンテンツ及びその施設と

連携する。

- 2 地域の工芸品の販売（市場開拓、市場戦略）を支援する仕組みを検討する。
- 3 ジオパークの施設で地域の工芸品を展示する。
- 4 萩焼をはじめとした伝統工芸品・地域の伝承や伝統文化のジオストーリーにおける位置づけやテーマとの関連性を示し、その技術継承や文化継承を支援する。

⑤ ジオパーク的な食と体験の情報発信拠点を整備する

- 1 主要なジオサイトの近隣に地域情報拠点施設やそれに準ずる施設を計画的に設置する。設置箇所は、交通アクセスを考慮したものとし、公的施設や空き家、道の駅の一部スペースなどを有効活用した展開を図る。
- 2 ジオツアー時に集合場所となるランドマークポイントを設定するとともに、案内板などインフォメーション機能をもたせる。
- 3 情報発信拠点施設においては、ユニバーサルデザインを意識し、バリアフリー化や点字・音声ガイド対応等を可能な限り行う。
- 4 情報発信拠点施設において、年間を通じて展示やイベントを展開する。
- 5 協議会や地元企業・団体が開発した地元の商品等のブランドを設ける。
- 6 商品パッケージやサービス内容にジオパークのストーリーやテーマを明確に記す。

5 地球目線で『繋がる』取組み

新たな組織体制の完成と JGN マグマネットワークを発足させる

① 地域部会の体制を確立する

- 1 各地域で「地域部会」を組織し、地域の保全活動、教育・普及活動、地域振興の取組みを充実させる。
- 2 地域部会で様々な立場の地域住民が自由に発言できる場を積極的に設ける。
- 3 地域部会を通じて、地域内外の人との協働が生まれボトムアップの仕組みをつくる。

② 地域振興のための行政等の関係機関と連携した取組み

- 1 協議会が民間企業や大学、地方自治体等との共同プロジェクトを企画し、事業化する。
- 2 ジオツーリズムにおいて環境に優しい散策路などの仕組みをつくる。
- 3 ジオサイト等への公共交通機関を使ったアクセスを紹介する。
- 4 公共交通機関が使用できないジオサイト等については代替の交通手段を検討する。
- 5 萩ジオパーク構想で統一されたデザインの道標を整備する。

③ JGN と連携した主体的な取組みを開始する

- 1 山口県内にある Mine 秋吉台ジオパークと緊密な連携を図り、共同イベントやジオツアー連携や、相互での研修会等を行う。
- 2 中四国・九州等の近隣のジオパークと巡回パネル展や講演会・学習会、交流・情報交換会等を実施する。

④ JGN マグマシンポジウムを開催する

- 1 「火山」・「マグマ」をテーマとしている国内ジオパークとシンポジウムを開催する。また、巡回パネル展や合同学習会、交流・情報交換会等を実施する。

⑤ JGN マグマネットワークを発足させる

- 1 「マグマ」をテーマとしている国内ジオパークと JGN マグマネットワークという新しい機関を発足する。

6 萩ジオパーク構想推進協議会に求められるもの

① 組織・体制の充実

- 1 萩ジオパークの保全・保護や地域の持続的発展の促進などについてマネジメント可能な運営体制を確立する。
- 2 ジオパーク活動に必要な人材・予算、支援体制を確保する。
- 3 必要な数の常勤の専門員を維持・確保する。
- 4 専門員のサポーターを養成する。
- 5 常勤職員の中にガイド養成の担当者を置く。
- 6 教育・普及部会、地域振興部会、保全部会を定期的に開催する。
- 7 協議会と関係機関・関係団体で協議し、互いの協力関係を明確にする。
- 8 策定した基本計画・行動計画が陳腐化することの無いよう、定期的な見直しを実施する。
- 9 ジオパークとしてのマーケティング戦略をつくる。
- 10 ロゴマークを地域住民に愛着を持ってもらえるよう普及・啓発に努める。
- 11 ロゴマークの利用に関するルール、使用基準を設ける。
- 12 「ジオパーク」の名称利用に関して運営ルールをつくる。

② 萩ジオパークヴィジョンの実現に向けて

- 1 地域の人がジオパークを通じて経済的・精神的に豊かになる仕組みをつくる。
- 2 ジオパークを楽しみ、生きがいを見出している人を増やす。

(2) 行動計画（アクションプラン）

行動(実践)内容	策定年	第1次行動計画				見直し	第2次行動計画			見直し
	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	
	(2017)	(2018)	(2019)	(2020)	(2021)	(2022)	(2023)	(2024)	(2025)	
(1)地球目線で『知る』取組み										
①萩ジオマスターを養成する										
1 地域住民のジオパークへの興味を深め、活動への参画を目指し、年間を通じて「萩ジオマスター講座」を開催する。	マスター講座開催									
②萩ジオマスターが活躍する場をつくる										
1 萩ジオマスターから人材を募り、ジオガイドを養成する。	ガイド養成の実施									
2 地域の社会教育活動に「萩ジオマスター」が参画し、解説等を行う。	マスター養成	参画の場づくり								
③学校におけるジオパーク利用ガイド・プログラムを作成する										
1 授業に「ジオパーク」を取り入れる。	実施	拡大								
2 山口県内の子どもたちに学ぶ環境を用意する。	プログラム検討	環境整備	実施							
3 萩博物館と連携した教育プログラムをつくる。		プログラム検討	環境整備	実施						
4 火山実験や柱状節理のでき方など学校教育や体験ツアーのための「萩のジオパークらしい」教材を用意する。	新教材の検討									
5 ジオサイトだけでなく、自然(生態)・文化遺産を含めた活用を行うため、解説・案内、ガイダンス、教育プログラムを展開する。	展開									
6 ビデオ、スライドショー等の映像資料を作成し、あらゆる場面で視聴できる環境をつくる。	検討	資料作成	更新	更新	更新	更新	更新	更新	更新	
7 ジオパークビジターセンターの展示を定期的に更新する。	コンセプト決定	大規模更新	更新	更新	更新	大規模更新	更新	更新	更新	
④学校教員向けジオパーク利用研修を行う										
1 地域内の教員向けの研修プログラムを実施する。		プログラム検討	実証実験・検証	プログラム実施					見直し	
2 山口県内の教職員を対象とした研修会の場を提供する。		研修会の開催								
⑤ジオマスター・ジオガイド主体の授業や研修会を行う										
1 ジオパークのエリアを訪れた子どもたちが、個別に参加できるプログラムを制作・実施する。	プログラム検討	受入人材養成	環境整備	プログラム実施						
2 小学生向けプログラムを制作・実施する。(エリア内、県内、県外ごと)		プログラム検討	試験的実施		本格実施					
3 中学生向けプログラムを制作・実施する。(エリア内、県内、県外ごと)		プログラム検討	試験的実施		本格実施					
4 高校・大学生向けプログラムを制作・実施する。(エリア内、県内、県外ごと)		プログラム検討	試験的実施		本格実施					
5 社会教育・生涯学習プログラムを制作・実施する。(エリア内、県内、県外ごと)		プログラム検討	試験的実施		本格実施					
⑥調査・研究の促進と環境づくり										
1 研究者の研究目的のための各種申請書作成支援を行う。		支援								
2 研究者の要望により現地案内できる環境を整える。										
3 各種論文が発表される環境づくりを行う。										
4 地域内の学術研究の成果をまとめたデータベースを作成する。また、その情報を公開し、資料収集がしやすい環境をつくる。		DB作成								
5 定期的にアンケート調査等を行い、来訪者情報を把握する。また、調査結果を分析し、今後の活動等に反映させる。		調査実施	検証			調査実施	検証			
(2)地球目線で『守る』取組み										
①守るべきジオサイトを設定する										
1 ジオサイトを研究成果に基づいて設定し、それを進化・発展させる	初期ジオサイトの設定	調査・研究に基づくジオサイトの見直し								
2 保全会議(サイトの劣化に対する協議の場)を開催する。	地域部会の醸成	保全会議の開催								
3 萩ジオパークにおける地球活動の記憶の理解に必要な自然サイト、文化サイトを設定する。	サイトの設定	調査・研究に基づくサイトの見直し								
4 ジオサイトの保全のためのルールを設け、告知する。	初期ジオサイトの設定	ルールづくり	地域部会との合意	告知						
②ジオサイトカルテを作成する										
1 地質年代・岩石の種類・特徴をリスト化する。	リスト化			情報の更新						
2 国際的に特徴的なジオサイト、国内で特徴的なジオサイトなどジオサイトの分類分けを行う。	分類分け			情報の更新						
3 教育的に意義のあるジオサイトをリスト化し学校教育等に活用する。	リスト化		活用							

行動(実践)内容	策定年	第1次行動計画				見直し	第2次行動計画				見直し
	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37		
	(2017)	(2018)	(2019)	(2020)	(2021)	(2022)	(2023)	(2024)	(2025)		
4 ジオサイトのデータベースをつくる。		DB作成	→	情報の更新	→					→	
5 自然(生態)遺産や文化遺産をリスト化する。	リスト化		→	情報の更新	→					→	
③ ジオサイトに関する住民説明会を開催する											
1 ジオサイトの基本情報を整理し、地域住民に正しく伝える。	初期ジオサイトの設定	基本情報の整理	活用	→						→	
④ ジオサイト保全計画を策定する											
1 各ジオサイトに応じた保全計画を策定し、保全活動を実施する。	初期ジオサイトの設定	ルールづくり	地域部会での合意	保全計画の策定	保全活動の実施	→				→	
2 遺産の破壊防止や持ち去りの禁止等のルールを設ける。また、これを周知する。		ルールづくり	周知	→						→	
3 必要に応じて、保護や研究を目的に立ち入り規制をする地域を設定する。		ルールづくり	地域部会での合意	設定	→					→	
4 研究のための地質標本採取について許可区域を設けるなどルール化する。		ルール検討	地域部会での合意	設定	→					→	
⑤ ジオサイトの保全活動を開始する											
1 監視・巡回(保全パトロール)を実施する。	初期ジオサイトの設定	地域部会での合意	パトロールの実施	→						→	
2 ジオサイトの定期的なメンテナンスとモニタリングを実施する。			試験的実施	→	実施	→				→	
(3)地球目線で『創る』取組み											
① 萩ジオガイドを養成する											
1 萩ジオパークを来訪者へ楽しく分かりやすく伝えるためのガイドを育成するため「萩ジオガイド養成講座」を開催する。	ガイド養成講座開設	→			見直し						
2 ジオガイドには、(1) ジオパークの理念、(2) 地質学や地形学の知識、(3) 大地と人と自然のつながりに関する知識、(4) リスクマネジメントの技術等を習得してもらう。	ガイド養成講座	→			→						
3 ガイド養成において、ガイド中に自然災害が発生した際のガイドのとりべき対応を習得するための研修をとり入れる。	ガイド養成講座	→			→						
② モニターツアーを実施する											
1 ジオサイトをジオツーリズムに活用する。	サイトの設定	ツーリズムの造成	モニターツアー	→						→	
2 ジオツーリズムの中心となりうる特定の地域を創出する。		ツーリズムの造成	モニターツアー	→						→	
3 ジオパークのジオストーリーやテーマを表現するジオツアーを提供する。		ツアー作り	ツアーの実施								
4 ジオツアーにより地域経済が潤う仕組みを構築する。		ツアー作り	ツアーの実施	仕組みづくり							
5 ガイドが、過去にそのエリア内で起きた自然災害や、その発生要因をジオツアーの中で紹介できる。	ガイド養成講座	→		→							
6 将来的には数日に渡るパッケージツアーを検討し、モニターツアーを実施する。				ツアーの検討	→	モニターツアーの実施	→			→	
③ ガイド組織を立ち上げる											
1 ジオガイド養成とモニターツアーでジオツアーを実践したガイド達によるガイド組織を立ち上げる。	ガイド養成講座	ガイド組織の立ち上げ									
④ ジオツアーを商品化する											
1 人数を限定した、深く学べるジオツアーを年数回実施する。		ツアー作り	ツアーの実施	→						→	
2 地質学や地形学に特に興味のあるグループのための専門的なツアーを検討・実施する。			専門的ツアーの検討	モニターツアーの実施	ツアーの実施	→				→	
3 年間を通じて定期的にツアーを計画・実施する。		ツアー作り	計画的実施	→						→	
4 幅広い参加者を対象とした、楽しく気軽に参加できるジオツアーを年数回提供する。		ツアー作り	ツアーの実施	→						→	
5 悪天候によりツアーが中止になった場合に利用できる代替案を用意する。		代替プランの検討	ツアーの実施	→						→	
6 事前の予約不要といった、参加者向けの柔軟な予約システム(当日受付可能など)を検討・運用する。ジオツーリズムにおいて交通量を減少させるための規制等の対策をとる。			検討	運用	→					→	
7 ジオガイドが低廉化しないよう定期的なガイド研修を実施する。			研修会の開催	→						→	
8 ジオツーリズムにおいて環境に優しい散策路などの仕組みをつくる。			仕組みの検討	整備案の検討							
9 天候に左右されないガイドツアープログラムを用意する。			プログラムの検討		ツアーの実施	→				→	
10 地元企業と協力したツアーを提供する。		プログラムの検討	モニターツアー実施	ツアーの実施	→					→	
11 将来的にガイド付きの自転車(サイクル)ツアーを検討し、モニターツアーを実施する。					検討	→				→	
12 ジオパーク内で旅行業の資格を持つ企業・団体もしくは個人と協力関係を構築する。		検討	→							→	

行動(実践)内容	策定年		第1次行動計画				見直し		第2次行動計画				見直し	
	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37					
	(2017)	(2018)	(2019)	(2020)	(2021)	(2022)	(2023)	(2024)	(2025)					
13 ジオツーリズムを継続させ、定番化させる。														
(4) 地球目線で『伝える』取組み														
① ジオパークの情報を発信する														
1 協会のウェブサイトを設置・運営する。より有効な情報発信のためのサイトをリニューアルし、常に最新の情報を提供する。また、SNS等と連動してタイムリーな情報発信を行っていく。														
2 観光協会や地方自治体などの幅広い情報を提供する他のウェブサイトへリンクする。														
3 ウェブサイトで最新の活動やイベント、イベント情報を公開し、気軽にエントリーが可能となるようプラットフォームを整備し、運用する。	サイト更新運用													
4 ウェブサイトでの多言語化を目指す。まずは、英語訳の環境を整え、次にフランス語、中国語、ハングル語等の環境を段階的に整備する。		英語訳					多言語化							
5 CATVやコミュニティFM等を通じて、地域の地場産品や観光名所にジオパークという付加価値をつけて紹介する番組を提供する。		番組制作・放送												
6 地元の新聞社等とタイアップして、萩ジオパークを紹介するコーナーの連載やイベント情報を掲載する。		取材・発行												
7 協会会員向け会報誌「萩ジオパーク推協だより」を毎月1回発行し、最新の活動の共有を図る。														
8 萩ジオパークビジターセンターをより充実するとともに、来訪者の増加と理解増進に向けたインタープリテーションを展開する。		展示改修					改修							
② パンフレット・マップ、説明看板を作成する														
1 適切な箇所に分かりやすい説明案内板を計画的に設置する。	サイトの決定	計画的設置												
2 ジオサイト、観光拠点などに読みやすい説明・案内板を掲示する。	3基	2基	2基	2基										
3 萩ジオパーク活動を紹介するパンフレットやマップを適切な箇所に設置する。また、常に更新を行い、最新の情報を提供する。	最新情報に更新													
4 ジオサイト地図をつくる。	作成	最新情報に更新												
5 萩ジオパークを説明するマップ・パンフレットを発行する。また、定期的に情報を更新する。	最新情報に更新													
6 マップやパンフレットがいつでもどこでも入手する環境を整える。特に、地域内各所の情報発信拠点で入手することができる体制をつくる。	環境整備													
7 萩ジオパークを説明するガイドブックを発行する。		ガイドブック案の作成	発行				更新							
8 将来的に協会が発行するマップ・パンフレット等の多言語化を目指す。							英語版作成							
9 ジオサイト近隣で利用可能な駐車場を確保する。	状況の確認	検討												
③ 食のジオパーク的な整理を行う														
1 ジオパークを通じ地域の食材や商品などの販売促進につながる仕組みを検討する。	ストーリーづくり	仕組みの検討												
2 ジオツーリズムにおいて地域の食材を使った料理を提供する飲食店等の情報を提供する。	ストーリーづくり	情報発信												
3 地域の農林水産物や郷土料理のためのジオパーク専用のブランド制度(統一したラベルや認証制度)を設ける。	制度検討	実証的運用開始		制度化										
4 ジオツーリズムにおいて地域の道の駅や農産物直売所等と連携する。	連携づくり													
5 ジオパークの地形・地質を表現した商品開発を推進する。	連携・開発			商品化										
6 イベント等で地域の食材や商品を販売できる機会を提供する。	機会提供													
④ 体験のジオパーク的な整理と開発を行う														
1 ジオツーリズムにおいて地域で体験・体感できるコンテンツ及びその施設と連携する。	プログラムの検討・造成	連携・発信												
2 地域の工芸品の販売(市場開拓、市場戦略)を支援する仕組みを検討する。	ジオストーリーづくり	関連性の裏づけ		発信と支援										
3 ジオパークの施設で地域の工芸品を展示する。	ジオストーリーづくり	展示												
4 伝統工芸品・地域の伝承や伝統文化のジオストーリーにおける位置づけやテーマとの関連性を示し、その技術継承や文化継承を支援する。	ジオストーリーづくり	関連性の裏づけ		発信と支援										
⑤ ジオパーク的な食と体験の情報発信拠点を整備する														
1 主要なジオサイトの近隣に地域情報拠点施設等を計画的に設置する。設置箇所は、交通アクセスを考慮したものとし、公的施設や空き家、道の駅のスペースなどを有効活用した展開を図る。	整備計画づくり	各拠点施設の整備												
2 ジオツアー時に集合場所となるランドマークポイントを設定するとともに、案内板などインフォメーション機能をもたせる。	案内看板の整備													
3 情報発信拠点施設においては、ユニバーサルデザインを意識し、バリアフリー化や点字・音声ガイド対応等を可能な限り行う。	UD、BF化の検討	UD、BF化への可能最大限の配慮												
4 情報発信拠点施設において、年間を通じて展示やイベントを展開する。	VCでの展示	各拠点施設の整備												

行動(実践)内容	策定年	第1次行動計画				見直し	第2次行動計画			見直し
	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	
	(2017)	(2018)	(2019)	(2020)	(2021)	(2022)	(2023)	(2024)	(2025)	
5 協議会や地元企業・団体が開発した地元の商品等のブランドを設ける。	ブランド化の検討	商品セレクト	発信							
6 商品パッケージやサービス内容にジオパークのストーリーやテーマを明確に記す。	ストーリー・テーマの設定	商品・サービスへの反映								
(5)地球目線で『繋がる』取組み										
① 地域部会の体制を確立する										
1 各地域で「地域部会」を組織し、地域の保全活動、教育・普及活動、地域振興の取組みを充実させる。	部会設立準備	部会の開催	維持・継続 進化・発展							
2 地域部会で様々な立場の地域住民が自由に発言できる場を積極的に設ける。		部会の開催・環境整備								
3 地域部会を通じて、地域内外の人との協働が生まれボトムアップの仕組みをつくる。			部会間交流	協働の実践						
② 地域振興のための行政等の関係機関と連携した取組み										
1 協議会が民間企業や大学、地方自治体等との共同プロジェクトを企画し、事業化する。		企画・検討	事業実施 展開・発展							
2 ジオツーリズムにおいて環境に優しい散策路などの仕組みをつくる。				仕組みの 検討		整備計画	整備			
3 ジオサイト等への公共交通機関を使ったアクセスを紹介する。	現況の確認	アクセスの紹介と環境改善に向けた調整・要望								
4 公共交通機関が使用できないジオサイト等については代替の交通手段を検討する。		検討	実証実験	環境改善に向けた調整・要望						
5 萩ジオパーク構想で統一されたデザインの道標を整備する。		デザイン 検討	実現可能性の模索		整備計画	整備				
③ JGNと連携した主体的な取組みを開始する										
1 山口県内にあるMine秋吉台ジオパークと緊密な連携を図り、共同イベントやジオツアー連携や、相互での研修会等を行う。	連携づくり	継続・発展								
2 中四国・九州等の近隣のジオパークと、巡回パネル展や講演会・学習会、交流・情報交換会等を実施する。			定期開催 (年1回)		頻繁に開催					
④ JGNマグマシンポジウムを開催する										
1 「火山」・「マグマ」をテーマとしている国内ジオパークと、シンポジウムを開催する。また、巡回パネル展や合同学習会、交流・情報交換会等を実施する。		JGN正会員 加盟	ネットワー クづくり・交流							
⑤ JGNマグマネットワークを発足させる										
1 「火山」・「マグマ」をテーマとしている国内ジオパークと、JGNマグマネットワークという新しい機関を発足する。				立ち上げの 検討	発足	活動				
(6)萩ジオパーク構想推進協議会に求められるもの										
① 組織・体制の充実										
1 萩ジオパークの保全・保護や地域の持続的発展の促進などについてマネジメント可能な運営体制を確立する。	体制の 検討	体制づくり	維持・継続						見直し	
2 ジオパーク活動に必要な人材・予算、支援体制を確保する。	人材確保	維持・継続			見直し	維持・継続			見直し	
3 必要な数の常勤の専門員を維持・確保する。	○	維持・継続								
4 専門員のサポーターを養成する。		体制づくり	活動展開							
5 常勤職員の中にガイド養成の担当者を置く。	○	維持・継続								
6 教育・普及部会、地域振興部会、保全部会を定期的に開催する。	地域部会 の醸成	「部会」から 「会議」へ	会議の 定期開催							
7 協議会と関係機関・関係団体で協議し、互いの協力関係を明確にする。	体制づくり	具現化								
8 策定した基本計画・行動計画が陳腐化することの無いよう、定期的な見直しを実施する。	策定	第1次基本計画・行動計画			見直し	第2次基本計画・行動計画			見直し	
9 ジオパークとしてのマーケティング戦略をつくる。										
10 ロゴマークを地域住民に愛着を持ってもらえるよう普及・啓発に努める。		新ロゴ マーク作成	普及・啓発							
11 ロゴマークの利用に関するルール、使用基準を設ける。		使用基準 の作成			基準の 見直し					
12 「ジオパーク」の名称利用に関して運営ルールをつくる。		ルール 作成								
② ビジョンの実現に向けて										
1 地域の人々がジオパークを通じて経済的・精神的に豊かになる仕組みをつくる。										
2 ジオパークを楽しみ、生きがいを見出している人を増やす。										

萩ジオパーク構想基本計画・実行計画

平成 29 年（2017）12 月

発行・編集 萩ジオパーク構想推進協議会

〒758-0041 萩市大字江向 6 0 2 番地

萩・明倫学舎本館 2F

TEL 0838-21-7765 ／FAX 0838-25-7767



〈萩ジオパーク構想ロゴ コンセプト〉

活火山・阿武火山群の火山が噴火してできた平らな溶岩台地の島々は、萩でしか見られないめずらしい火山地形です。その火山地形を私たちが虹の架け橋となって守り、生かしていくことにより輝かしい未来が待っているということをイメージしています。

イメージカラーは日本海の島々を背景に輝く夕陽の赤色です。